

東と弁往來

第43回 法テラス江差法律事務所



法テラス江差法律事務所
(北海道檜山郡江差町)

函館弁護士会会員 板垣 義一 (64期)

2011年12月 弁護士登録, 東京弁護士会入会

2013年1月 函館弁護士会に登録換え, 現在に至る

1. はじめに

私は、2011年12月に東京弁護士会に弁護士登録し、小林・福井法律事務所にて1年間の養成を受けた後、2013年1月に函館弁護士会に登録換えし、法テラス江差法律事務所へ赴任しました。東京では会派の活動によく参加させていただいておりました。

法テラス江差法律事務所は、2006年10月の法テラスの業務開始と同時に開所した事務所で、私は6人目の赴任者です。現在の当事務所は、弁護士2名、事務職員2名という体制をとっています。

2. 江差町について

「江差」という地名が読めないという人もいないかもしれませんが。「えさし」と読みます。北海道は難読地名が多いですが、その中では読みやすい方でしょうか。北海道にはもう一つ「えさし」と読む地名があり、こちらは「枝幸」と書きます。

気候ですが、夏はクーラーをつけなくてもやっていける暑さです。冬の降雪量もそれほど多くはありません。しかしながら、冬場は日本海沿岸特有の寂しさを感じます。とにかく風が強く、体感温度は実際の気温より低く感じますし、吹雪くこともしばしばです。凍結路面と吹雪とで、車の運転には相当気を遣います。

人口は、2015年10月末日の時点で8240人。10年前には人口が1万人を超えていたようですから、他の多くの過疎地と同様、急激な人口減少傾向にあります。江戸時代にはニシン漁で大いに賑わっていたらしいのですが、1913年を最後に全くニシンが獲れなくなり、今に至っています。

公共交通機関は本数の少ない路線バスのみで、車なしで生活するにはかなり厳しい地域です。最寄りの大きい都市である函館までは車で1時間30分かかり、札幌までは4時間30分くらいかかります。

江差で最大のイベントは何かと問われれば、間違いなく毎年8月9日から11日までの3日間行われる姥神大神宮渡御祭です。この時ばかりは、どこにこんなに人がいるんだろうというくらい人が集まり、13台の山車が派手に町内を練り歩きます。祭のために生きているという意気込みを見せる人も多くいるほどです。

他にも、江差は民謡「江差追分」発祥の地でもあることから、その歌唱力を競う江差追分全国大会が毎年9月に開催されています。サンパウロからわざわざ出てくる人がいるのには驚かされました。

名物は五勝手屋の羊かんでしょうか。江差のお土産というと、真っ先にこれが思い浮かびます。

江差は、全国ニュースで取り上げられることがほとんどありませんが、私が赴任してから、JR江差線の廃線という出来事がありました。廃線になったのは



姥神大神宮渡御祭

2014年5月でしたが、廃線になるまで全国から鉄道大好きな方がひっきりなしに来ていましたし、廃線当日の賑わいもなかなかのものがありました。

実は、2014年からの江差の町長は、全国最年少の首長（照井誉之介氏）で、私より学年が一つ下です。江差には同世代の独身男性があまりいないこともあり、彼とは一緒に飲みに行くこともあります。

3. 江差支部について

法テラス江差法律事務所のある江差町を管轄する裁判所は、函館地方・家庭裁判所江差支部です。裁判官は月に1回、1泊2日の日程で本庁から填補してきます。

管轄区域は、檜山と呼ばれる地域の南部で、人口は3万人もいません。

合議事件はありませんし、執行事件も取り扱っていません。破産管財事件については、最近、江差支部でも取り扱うようになり、管財人に選任されたこともあります。刑事事件に関しては、在宅事件のみ取り扱っています。そのため、江差の身柄事件が起訴された場合には、函館の拘置所まで移送されることになり、接見や公判等で長時間の移動を余儀なくされます。

江差支部管内の法律事務所は、法テラス江差法律事務所しかありません。弁護士は確かに2名おりますが、同一事務所内で利益相反事件を受けられるはずもありませんので、実質的には弁護士ゼロワン地域といっても差し支えないです。ゼロワン問題が解消されているわけではないことは知っておいていただきたいと思います。

4. 法テラス江差法律事務所の活動内容

法テラス江差法律事務所は、いわゆる「4号事務所」（司法過疎対策として設置される法律事務所）ということで、都市部の法テラス法律事務所と異なり、受任できる事件に制限がありません。とはいえ、民事法律扶助制度を利用しての債務整理事件が圧倒的に多いという印象です。離婚や相続といった家事事件や、裁判所から選任される事件も受けています。刑事事件に関しては、あまり数はありませんし、裁判員対象事件を受けることもありませんでした。付添人をやる機会にも恵まれませんでした。

私が所属している函館弁護士会は、全国最小規模の単位会です。そのせいもあり、特に若手が多数の会



廃線当日のJR江差線

務活動をしています。現在、委員会に参加するに当たっては、スカイプでつなぐなどはせず、函館市の弁護士会館まで足を運んでいます。

近時、法テラスでは全国的に司法ソーシャルワークを推進していますが、法テラス江差法律事務所でもそれに当たることを行っています。江差町や隣町である厚沢部町の地域包括支援センターとの連絡を密にして地域ケア会議などへ定期的に出席させていただいておりますし、その関係から受任に結び付いた事例もありました。

5. 終わりに

私の江差での任期はもう満了するのですが、一言、江差に来て良かったと思っています。

赴任を打診された時は江差がどこなのかよくわかっていなかったですし、実際に赴任すると雪が積もっているし吹雪いているし、何か面白いスポットもそうあるわけではないので、心が折れそうになったのも事実です。

ですが、しばらくすれば自然と環境にも慣れ、行きつけの居酒屋もでき（任期満了で一番寂しいのは、この店に行けなくなることです）、都心部の若手だとなかなかできないであろう仕事もできました。函館弁護士会の方々にも大変良くしていただきましたし、恵まれた環境で仕事ができたと考えています。過疎地では弁護士のハードルが高いと思われることもまだまだ多いのですが、相談者、依頼者はもとより関係機関の方々からありがたがられることも多く、やりがいも十二分に感じられました。

過疎地への赴任は、法テラスであれひまわり基金であれ、おそらく若手のうちにしかできないことだろうと思います。今後のキャリアプランなどいろいろ考え出すと二の足を踏む部分もあるかもしれませんが、思い切って飛び出してみる価値があることは保証します。ぜひ過疎地へ行ってみてください。